

市長の市政方針を問いました



平成27年6月議会において、会派代表質問をしました。そこで、前業市長に「津市の将来ビジョン」の実現に向けた2期目の思いについて質問しました。その内容として、1期目期間内の「総合計画」や「都市マスタープラン」の内容を精査し、成果の部分と反省の部分进行分析し、

さらに精度を上げながら「津市の将来ビジョン」をローリングし、変容させ、実現に向けて展開していく必要があると思いつくしながら、その考えを質問した次第です。

教育環境は平等に

教育施設の整備については、合併後、耐震工事や統廃合による合理化、人口移動、生活様式の多様化による普通教室、特別教室の増築・改修にと、未来を担う子供たちの学びの環境の充実が喫緊の課題と考えます。また、子どもたちが等しく教育を受けることを前提に、平等、公平、適正を鑑み、地域の特性であり、人口の増減、面積、密度、立地条件等々あらゆるデータをもとに整備計画を立てられ、予算化し、将来の津市の教育がどうあるべきかを考える指標だと思うが、教育環境整備の基本計画はどのように策定しているのか。また、陸上競技やテニス、サッカー、剣道、柔道等、クラブ活動ができる学校、できない学校がある。この状態で学力・体力の向上は測れるのか。質しました。

小中一貫教育の良い事例に

小中一貫教育の実践事例として今回の議案に、美里地区における施設一体型と、南が丘地区における隣接型の異なる進め方が同時に提案されている。美里地区は、小学校3校を統合し中学校に増築。約4億8千万円をかけ、さらに、テニスコート、プールを整備してから、小中一貫をすること。南が丘

は、普通教室の増築で、運動場の整備はなし。この整備内容の違う進め方が、津市の進める小中一貫教育の良い事例となるのか、伺いました。

幼児期の教育・保育の提供体制は

一人ひとりの子どもは家族のみならず、地域の宝であり、健やかな育ちは誰もが描く共通の願いです。

近年の少子化・核家族化の進行、近隣とのつながりの希薄化等による子

育ての孤立化、依然として厳しい就労環境、共働き世帯の増加やライフスタイルの多様化、若者の結婚や家族に対する



垂水乳児院訪問

価値観の変化を背景に家庭や地域における「子育て力」の低下がみられます。そこで津市においても、「子ども・子育て支援事業計画」が策定され、多様な子育て支援に取り組んでいこうとしています。「人が家庭を、家庭が地域を、地域が街を築いていく」という観点から、質問しました。

乳児院、児童養護施設の在り方

社会的擁護の施策は、かつては、親がいない、親に育てられない子どもへの施策であったが、虐待を受けて心に傷を持つ子ども、何らかの障がいのある子どもなどへの支援を行う施策へと役割が変化し、その役割、機能の変化に、ハード、ソフトの変革が遅れています。これらをふまえ「三重県家庭的擁護推進計画」が策定され、家庭擁護の支援や施設の



児童養護施設見学

の小規模化を進めるための具体的な方策が定められました。そこで、家庭的擁護推進に関する基本的な考えの中で、本体施設、グループホーム、里親・ファミリーホームにおける要保護児童の割合を概ね3分の1ずつに変えていくことを目標に設定しているが、課題はないか伺いました。

※詳しくはHP (<http://www.tanaka-katsuhiko.com/>)

JICA 永田さんが市長表敬



田中 高井会長 前葉市長 永田隊員 竹内次長 南出さん

国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊員として、6月下旬から2年間ラオスに出発する永田彰さんが、6月23日に市長表敬をしました。

永田さんは、ラオスのビエンチャン国立大学で、コンピューター技師として派遣されます。永田さんは「国際貢献がしたい」と志が高く、また、奥さんの理解と協力もあり、約3か月間の研修期間を経て、協力隊員となりました。永田さんは、三重県の国際交流に協力する「みえ国際協力大使」を委嘱されました。市長表敬に出席したのは、JICA 中部の竹内次長、三重県デスク南出さん、三重県協力隊を育てる会会長高井さん、田中です。

瑞々しい初夏の京都へ

南が丘青年会恒例の「てくてくウォーク」が、6月6日(日)実施されました。参加者35名と、マイクロバス2台利用で、「月桂冠大倉記念館」「寺田屋」「伏見稲荷大社」へと行ってきました。

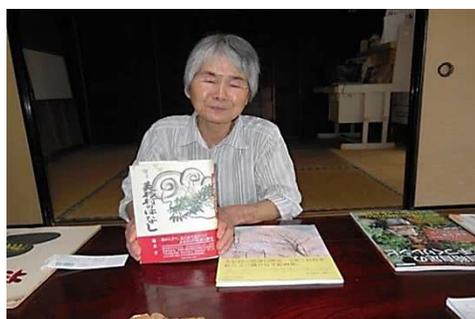
当日は絶好の好天に恵まれ、京都伏見区をてくてく歩き、「月桂冠」「黄桜酒造」等、酒蔵めぐりや伏見稲荷の千本鳥居をくぐり山頂へ、いい汗かきました。旅行の楽しみは食事、月桂冠が経営する「月の蔵人」でランチ、気分もお腹も満足、満腹になりました。



伏見稲荷にて

干し野菜が元気の源

美杉町 坂本幸さん



坂本さんの自宅にて

高野山で8年精進料理の研究をしてきた、坂本 幸(こう)さんの作る野菜は最高に美味しい! 大根ステーキ、ふきの佃煮等の野菜はもちろん、南瓜や人参、蓮根の干し野菜は天日で干して、炭火で燻すから「湿らない」。オリジナル料理として、「ゆべし五平餅」や干し野菜の天麩羅を入れた「ひなた蕎麦」は食べてみたい! 坂本さんの料理は、以前NHK朝のレポートにも紹介されたし、「東久邇宮記念賞」も受賞。料理の腕前はもちろん、温かみある言葉の説明は、野菜嫌いな人を驚かすほどの説得力だ。

坂本さんは、歴史好きで、「美杉村の話」「美杉村見て歩き」等の本も出版しています。こんな人が街を変え地域を変えるのでしょうか。

武四郎に随行 蝦夷日記みつける

北海道の名前をつけた「松浦武四郎」は有名ですが、同行した「松本新次郎」の名前はあまり知られてはいません。松本新次郎は、伊勢新聞社の創設者、「松本宗一」の甥。松浦武四郎と同行した日記は3冊、「蝦夷廻番日記」「松前道中日記」「奥州塩竈松島日記」である。これらの日記は、古くて虫に食われており、漢字が難しい為読めないが、バッテリー(鯖の押しずし)の語源である「マツテイラ」を意味する小舟の絵は判った。また、アイヌの人との交流も記されており、驚いた次第です。

